

平成12年京都経済4団体新春年賀交歓会挨拶(2000年1月5日)

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、新しい年をすがすがしい気持ちでお迎えになられたことと存じます。本日は、新年早々何かとお忙しい中を、京都経済四団体主催の新春年賀交歓会に多数ご出席下さり、主催者一同を代表致しまして厚く御礼申し上げます。また荒巻知事さん、梶本市長さんはじめ、国会議員の諸先生方におかれましては、公務極めてご多忙のところ、ご臨席を賜り誠に有り難うございます。

はじめに、2000年の新しいミレニアムという記念すべき最初の年にあたりまして、20世紀を振り返り、そして21世紀を展望する私の思いをお話しさせて頂きたいと思えます。20世紀は、科学技術が絢爛たる花を咲かせたサイエンスの世紀と云えるのではないかと思います。科学技術のあらゆる分野において進展が見られた世紀であり、これに伴って物質文明が驚異的な発展を遂げ、人類史上はじめて以来とも云うべき豊かな経済社会を築き上げる世紀になりました。

また資本主義が社会主義に勝利して、資本主義の優位性が燦然と輝くことになりました。それに併せて、科学文明、物質文明の極限的な発達、そして資本主義至上主義は、人間の欲望の際限なき肥大化、良心の墮落や倫理観の欠如、人間性の喪失を招来するという深刻な事態をもたらすことにもなったのであります。

この結果として、社会的な軋轢から環境破壊に至るまで、さまざまな問題を引き起こしたと云えます。このままの物質文明の延長で人類は本当に幸福になれるのか、未来に人類の幸せがあるのかという疑問が生起し、これまでないがしろにされてきた心の問題、精神の尊さを重視する世界の再構築が必要になってまいりました。時あたかも、自然との共生を忘れた人類にそれを目覚めさせようとする世界的な動きが環境問題ではじまってきております。

こうした中で、来るべき21世紀には、人間の良心、豊かな人間性を取り戻し、すばらしい倫理観、道徳心や価値観を再構築しなければなりません。これまで欲望のために傷つけてきた自然、地球と

いう惑星に対する人類の愛、人類の慈しみを深く包含して、人類が平和と共存できるような世紀であって欲しいと思っております。

そのためにも、本年は20世紀を閉じる最後の年であるとともに、来たる21世紀が人類にとって素晴らしい世紀になるための大切な一年だと思えます。

さて、我が国経済は、1990年代初頭からバブルが弾けて、その後約10年間バブル崩壊で低迷しておりました。そして昨年、政府の幾度かの経済対策により、ようやく底を打ち本年は緩やかながらも景気回復の年になるだろうと思えます。これまでの苦しかった不況から、少し明るい経済の足取りを見せるものと思っております。

しかし、景気回復の年とは云っても大きく経済成長をしていく景気回復ではなくて、今までマイナス成長であったものが、プラスに転じる程度のものであり、結局はこれ以上悪くならないという景気回復かも知れません。

いずれにせよ、これまでの暗い経済から脱して、少し明るい経済に転じるので、個々の企業が一生懸命頑張っていくことが大切だと思います。また、これからの企業経営には、売り上げを増やすことは難しいかも知れませんが、現在の売り上げ規模で何とか利益をあげていくということが大事であります。つまり、過去に経験した景気回復パターンではなくて、下げ止まった中で、現在の売上げでもって利益を上げていくという個々の企業努力が必要であります。

また、伝統産業関連や小売・商店街等での不況は、国民生活パターンの変化または生活様式の変化に伴う構造的な不況の感があります。恐らく通常の景気対策では容易に回復しないものと思えます。21世紀を目前にして、社会の生活様式の変化による、経済界に対する大きな地殻変動が起こっており、本年はこの地殻変動に対して、経済界として業種転換等を伴う構造改善など勇気をもって局面打開をしていかねばならない年だと思えます。大変厳しいけれども、関連する企業におかれましては、業種転換など大きな構造的な変化に対して一生懸命努力し、勇気をもって克服して頂きたいと思っております。

ところで、京都におきましては、情報通信をはじめとするハイテ

ク企業で上場している企業の中で株価が2万円を超える企業が5社もみられます。人口146万の都市にあって21世紀を先導する株価2万円の企業が群れをなして存在していることは国内のみならず世界的にも注目されているところでもあります。今後、これらの企業に良き影響を受けた多くの新進気鋭の企業群がこの京都に輩出して欲しいと願っております。

京都商工会議所としては、これら21世紀の京都産業を担う企業群から、いい影響を受けて素晴らしいベンチャー企業群が創出されますように京都南部の開発をはじめ、あらゆる手立てを打っていきたいと思っております。

次に、21世紀に京都が再生するためには、古くて新しい京都観光の振興が非常に大事だと思います。

もともと観光産業は、ホテル・旅館、運輸・交通、社寺仏閣、伝統工芸産業、飲食・土産物業界など非常に裾野が広く、これらの観光関連産業が繁栄することによる京都活性化への波及効果は膨大なものがあります。

そこで、京都商工会議所では、観光振興に全力投球していききたいと思っております。そのためにも内外から多くの方に京都に来て頂くことが京都観光の振興、そして京都経済の再生に繋がるとの観点から、2002年開催予定の地球サミットを京都に誘致したいと思っております。また2003年には歌舞伎生誕400年を迎えますので、歌舞伎発祥の地・京都で西洋文化と東洋文化が接近し、そして東西文化の融合による新しい21世紀の世界文化としての「新しい芸術舞台」を生み出し、内外から多くの方々をお迎えしたいと思っております。

この「新しい舞台芸術」は、戦乱に明け暮れ物質文明に偏り、心の渇きをみせた20世紀から世界平和はもとより、人類の心に潤いを与え、心に花を咲かせ人類と自然が共生する21世紀を表現していききたいと思っております。これは日本を代表する哲学者である梅原猛氏による脚本をもとに、世界バレエ界の第一人者として多くの輝かしい成果を残され現在も世界を舞台に活躍されているベジャール氏と、スーパー歌舞伎として歌舞伎界に一大旋風を引き起し、日

本歌舞伎の革命児である市川猿之助氏との演出による東西文化の融合とも云うべき「新しい舞台芸術」を開催したいと考えております。

そして、これはまだまだ夢の話ではありますが、釘一本も使わない純粋な木造による八角九重の塔を再現し、「平和の大塔」として、20世紀に戦乱で亡くなられた世界の人々を鎮魂するとともに、新しい観光モニュメントとして内外から観光客をお呼びしたいと考えております。

このように、これら大規模なものから、そして小規模なものまで観光客の呼び込みのため、いろんな事業・イベントを企画し、開催していきたいと考えております。その際大事なことは、京都にこられた方々に京都府民、京都市民あげて「おもてなしの心」でお迎えすることだと思えます。

皆様方におかれましても、観光客が是非もう一度京都に行きたいという気持ちを抱いて頂けるような「おもてなし」をして頂きたいと考えております。

最後に、京都府、京都市、経済界ともども力を合わせて21世紀の京都を創造していきたいと思っておりますので、皆様方の絶大なるご支援ご協力をお願い致したいと考えております。大変長くなりましたが開会にあたりましての私のご挨拶とさせていただきます。

京都商工会議所
会頭 稲盛和夫